

---

# 旅人と牡鹿

彼方朝

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

旅人と牡鹿

### 【Nコード】

N08120

### 【作者名】

彼方 朝

### 【あらすじ】

一頁程の短編で出来た小説。全部合わせて『旅人と牡鹿』の軌跡です。

## 1 旅人と牡鹿

その緑の町には勇者を目指す少年がいた。彼はある日、一振りの剣を腰に差し、夢を追って町を出る事を決意する。普段仲良く穏やかに過ごしていた町の住人達だったが、少年の決意を聞くと、ここぞとばかりに笑い飛ばした。しかし想いの強い少年は、そんな笑い声を背に受けつつ歩き始める。

希望という名の服を着て町をめぐる少年。勇者に必要な、彼にしか出来ない事を探す為に。けれど、赤の村も青の国も黒の街も紫の城も、どこの住人も彼を笑うばかり。彼の憧れた、仲間や名声は霞となつて消えてゆく。次第に服も汚れ、ボロボロと端からほつれていった。だが、勇者になるのは彼の夢。少年が足を止めることはなかった。

ある日、彼の前に彼より若い、やはり少年が剣を掲げ仲間と共にやってくる。

「悪魔よ、覚悟しろ！」

訳も分からず、彼は聞き返す。

「誰が悪魔だ。僕はただ、勇者になりたいだけだ」

だが相手は聞く耳など持つてはいなかった。剣を振りかざし、彼を断罪すべく向かってくる。彼にできることは必死に逃げるだけだった。

そうして追われた彼は、逃げ延びた先の泉で驚いた。泉にうつるのは真っ黒な服、汚れた体、何より夢を望む少年ではない醜く歪んだ顔。彼はその姿に泣きたいと思った。けれども既に、涙など忘れていた。嘲笑に歯を食いしばる事しか覚えてはいなかった。彼はそんな自分を呪った。この世界の住人を呪った。全ての不幸を望もうとした。

膝を抱えずくまる彼の目の前に、ふと美しい鳥の羽が差し出さ

れた。思わず見上げた彼の前には、羽を銜え堂々と立つ牡鹿。  
牡鹿は言う。

「昔々、まだ小鹿だった頃君と楽しく遊んだことがある。あの頃から自分も君も変わってしまったけれど、この鳥の羽があまりに美しいから、君にどうしても見せたかった」

少年の喉から嗚咽が漏れた。

それから少年と牡鹿はゆっくりと歩き出す。少年は旅人になった。

## 2 緑の町

旅人は緩やかな煙漂う、柔らかな緑の町へたどり着いた。

そこは穏やかな死に包まれていた。

町の中心では常に火を焚き、数種の草木を燃やして煙を立てている。まさにその煙こそが緩慢に、しかし確実に死を町の住人たちへともたらず原因であった。国の中でも寿命が短い緑の町の住人たちは、それでもその現状に満足していたし幸せだと感じていた。

煙を焚いているのは、四方を深い森に囲まれた街を獣から守るためだったが、それが昔からの伝統であり、今では望む者はこの町を自由に出ていく事が出来た。それにも関わらず彼らが緑の町に住む事を決めたのは、自らの選択。彼らは害を含んだ緑の町が好きだったのだ。

穏やかで緩やかな死に現実味を感じなかった旅人は町で暮らし始める。旅人の隣を歩いていった牡鹿は、煙を嫌い町を囲む森へと飛び込んで行った。

旅人が町の暮らしに慣れた頃、政府はある種の草木の栽培を禁止した。その草木には緑の町を守る煙を生み出す物も多く含まれていた。

当然緑の町の住人は反対の声を上げる。しかし“死”を忌み嫌う政府は強引に政策を押し進めた。結局政府は、町の住民を獣から守るため町の周囲に高い塀を築きあげ高らかに宣言する。

「これで彼らは死に怯える必要もなくなった」

空から雲を引き下ろしたような柔らかな緑の街は、高い塀の内では鮮やかな色を取り戻していった。柔らかく人々を包んでいた煙は吹き去り、町の中心で人々の安心を生んでいた炎も消えた。

しばらくして緑の町は犯罪へと染まっていく事となる。高い塀と獣の棲む鬱蒼とした森が、犯罪を隠す。穏やかだった緑の町の住人

達は犯罪者になるか、無気力に路地裏に座り込んでしまふ。

そのさまを旅人は悲しい目で見つめていた。

町の周りで、昔彼らを守っていた草木が美しい花をつけ風に揺れている、その間から顔を出した牡鹿とともに旅人は、今や穏やかな秀囲気のかき消えた緑の町を去って行った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0812o/>

---

旅人と牡鹿

2010年10月10日15時32分発行